

みんなを見守るプラポン

題材のねらい

学校のシンボルツリーのポプラが一生懸命生きようとする姿を通して、前向きに粘り強く生きようとする道徳的実践意欲を育てる。

教科等との関連

道徳 1 - (2)

自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。

展開例

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応
導入	資料に興味を持つ。	○「写真 (p. 36) を見てどんなことを思いましたか」
展開	資料の範読を聞きながら黙読する。 ・倒れたポプラの木を見たときの子どもの気持ちを考える。 ・田んぼに立っているポプラの切り株を見たときの子どもの気持ちを考える。 ・プラポンを世話している子どもたちの気持ちを考える。	○「倒れたポプラの木を見た子どもたちはどんな気持ちだったでしょう」 ・台風力はすごい ・大変なことになってしまった ・何とかもとに戻して欲しい ○「田んぼに立っているポプラの切り株を見た子どもたちはどんな気持ちだったでしょう」 ・遠くに流されて分からなくならなくて良かった ・台風や水害に負けずに堂々としていてすごい ・懸命に生きようとしている ○「プラポンと名前をつけて、子どもたちはどのように育てたのでしょうか。校庭に植えたプラポンに話しかけてください」 ・新田小学校に戻って来られて良かったね ・倒れても、流されても、プラポンはあきらめないね ・もとのように大きく育ててね ・台風が来ても倒れないで強く生きてね
まとめ	感じたことを書く。	○「感じたことを道徳ノートにまとめましょう」

みんなを見守るプラポン

A 豊岡市立新田小学校の運動場にじゅれい50年近くの大きなポプラの木がありました。ポプラは、学校の風けいになくはならないものとして子どもたちはもちろん、そつ業生や地いきの多くの人に親しまれていました。

2004 (平成16) 年9月、台風18号が町をおそい、その強い風でポプラの木はたおれてしまいました。学校の子どもたちや地いきの人たちは力を合わせて元にもどそうとしましたが、どうすることもできませんでした。みんなにおしまれながら、ポプラは細かく切り分けられてしまわれました。でも、何とかほぞんできないものかと、大きな切りかぶだけは、近くのぞう園業者さんに引き取られていきました。

その一月後、今度は台風23号の大雨で川がはんらんし、町は水びたしになってしまいました。ポプラの切りかぶも、大木に流されてしまいました。

町の水がひくと、みんなはびっくりしました。流されたポプラの切りかぶが、2km以上はなれたたんぼのまん中に、まるではじめからそこで育っていたかのように、どうどうと力強く立っていたのです。新田小学校の子どもたちや台風のひがいて苦しんでいた町の人たちは、たんぼに立つ大きな切りかぶを何度も何度も見におどろきました。

春になりました。おどろいたことに、ポプラの切りかぶから新めがいつすくすく育つプラポン (豊岡市立新田小学校) ばいふき出してきました。ポプラの木は、たおれても、切られても、そして水に流されても一生懸命に生きようとしていました。

新田小学校の子どもたちは、その新めをさし木して育てることにしました。そして、「プラポン」と名前をつけて、校庭に植えました。プラポンは、みんなのあいじょうをいっぱい受けてすくすく育ち、見上げるほど大きくなりました。

今、新田小学校ではプラポンが、校庭で遊ぶ子どもたちを見守るように立っています。




わたしたちも、プラポンのように強くなりたいね。

帰ってきたプラポン
 2007 (平成19) 年3月、ポプラの切りかぶは新田小学校にもどってきました。ポプラの木としては生きていくことができませんでしたが、モニュメントとしてそのすがたをのこし、校庭のプラポンといっしょに子どもたちを見守っています。

A 【参考】兵庫県豊岡市立新田小学校ホームページ
<http://www2.city.toyooka.hyogo.jp/edu/school/nitta-es/>